



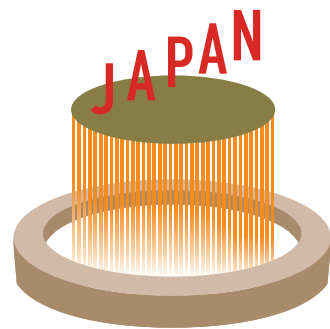
船山 徹

FUNAYAMA Tetsu

三菱商事執行役員
国内開発担当(兼)関西支社長

談論
風発
INTERVIEW

大阪・関西万博で示す 日本の存在感



三菱商事に入社2年目に語学研修でベトナムに派遣されて以来、同国を中心に仕事をしてきました。ベトナムと日本は、ともに儒教と仏教の伝統があり理解しあえる共通の気質があるようで、ベトナムは東南アジアでも有数の親日国であると思います。

関西に赴任する直前までは、ベトナムでの現地法人の社長として、エネルギー・小売・自動車等の分野における日本からベトナムへの投資を促進・充実させる業務に携わりました。日本のみならず欧米諸国からも有望な市場・投資先と目されているベトナム。2016年から2022年までの在勤中、16の在ベトナムの外国商工会議所から構成されるベトナム政府への産業政策の提言組織「ベトナムビジネスフォーラム」の議長を2度務め、時の首相と「差し」で意見交換も行いました。こうした活動を通じてベトナムにおけるグローバルコミュニティーにおいて日本の存在感を高めるとともに、外国企業の取りまとめ役として日本企業がベトナム政府に種々提言することもできたと思自負しています。

このような経験をふまえ、関経連では国際委員会と都市・観光・文化委員会の副委員長を務めています。モロッコ、アイルランド、オーストラリア、オランダの各政府トップとの懇談の場に松本正義会長他、関経連のトップと同席させていただく機会もありました。ビジネスの面から大阪・関西をさらに元気にすることが私の使命であるという気持ちを忘れず、一層身を引き締めて取り組んでまいります。

2025年大阪・関西万博がいよいよ開幕しました。大屋根リングのもと、世界158の国と地域、7国際機関が参加しています。ここでは、国同士の政治的な難しさやイデオロギーの違いなどに関係なく、各国が来場者に「世界を知る」貴重な機会を与えてくれています。『万博学－万国博覧会という、

世界を把握する方法－』（佐野真由子編集、思文閣出版2020年）には「万博は社会を映す鏡であり、世界を把握する方法」とあります。万博会場を歩くだけで、「各国で起きていることがわかる」ということは、グローバルな分断が進むいまの世界でこそ、大きな価値を持つのではないのでしょうか。

また、シンボルでもある大屋根リングは、ギネス世界記録™に認定された世界最大の木造建築物です。会場は、世界の最新技術と同時に、長年木に命を吹き込んできた日本の伝統建築の美しさを間近に見られる空間でもあり、まさに「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを体現しています。会場面積は1970年大阪万博の半分ほどですが、そこにまるで京都の名だたるお寺の庭園のように整然と美しくユニークな建築のパビリオンが配置されている様子は、いかにも細やかな日本人の仕事らしいと感じます。

そんなパビリオンの一つ、三菱未来館は「いのち輝く地球を未来に繋ぐ」を基本コンセプトに、未知なる深海から遥かなる宇宙へ、いのちを巡る壮大な旅へご案内します。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。仕事でもプライベートでもぜひ会場を訪れ、「参加」していただきたいですね。特にビジネス面では、参加国をはじめとする海外からのお客さまとの交流が新たな商機につながれば、「今回の万博が日本の存在感の向上に大いに寄与した」ということができるでしょう。

私は東京出身で、関西には2022年に初めて赴任しました。食事が圧倒的においしいですね。そして人情も厚い。また、各地のお祭りなど、地域がしっかり守り受け継いでいる伝統もある。今年はずばり万博ですが、歴史や文化が蓄積された京都や奈良も近いですし、まだまだ行ってみたいところがたくさんあります。（談）